

## ～令和4年3月 データから見た業界の動き～

### 3月報告のポイント

#### 製造業は3ヶ月連続収益悪化

#### 60%の事業者が仕入価格上昇、コスト増でも価格転嫁難が25%

##### ■ 概 況

3月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で売上高4ポイント（前年同月比+36）、収益状況▲28ポイント（前年同月比+8）、景況感▲16ポイント（前年同月比+20）と令和3年3月以降12ヶ月連続で回復傾向を示した。

業種別で製造業は売上高+5（前年同月比+50）、収益状況▲40（前年同月比±0）、景況感▲15（前年同月比+30）となった。

食料品製造業では、ホテルや旅館向けの業務用商品の売上げが増加、業務用機械器具製造業や電気機械器具製造業からも今後の経済活動の活発化を見越した製造機械の需要が増えており好調、半導体製造装置も引き続きニーズが多いとの報告がされた。

一方で、原材料の不足や価格の高騰は深刻さが増し、製造業全体で見ると収益状況は3ヶ月連続で悪化、木製品製造業では垂木と呼ばれる戸建住宅用の屋根材はロシア産材が主に使われており、今後の材料不足・国内市場のより一層の高騰は避けられないとの見方がされ、消費者の住宅建築ニーズの減少を懸念している。

非製造業では、売上高+3（前年同月比+26）、収益状況▲20（前年同月比+13）、景況感▲17（前年同月比+13）となった。

小売業（飲食料品・食肉）、宿泊業では、近県のまん延防止等重点措置が解除されたことから、県外からの観光客の増加を実感している様子。道路貨物運送業（トラック）からも、荷動きが増え売上増加、感染症の影響が減少してきたように感じるとの報告があった。

しかし、原油価格が記録的な水準で推移し、国の補助金を活用するが価格の上昇を抑えきれない（ガソリンスタンド）、原油以外にも、国際的な物流問題から、工事資材の調達難（電気工事、管工事）、原材料価格、エネルギーコストの上昇に耐えられない（食肉、事務機、鉄構など）と事業継続への影響を訴える報告もあった。

原材料や原油の価格上昇が企業に大きな影響を与えていることを受け、国は毎年1～3月を「転嫁対策に向けた集中取り組み期間」に定め、中央会では景況調査とあわせて中小企業の価格転嫁状況を調査した。調査対象企業50社のうち40件の回答があり、そのうち60%から、「現在の仕入（原価）価格が前年と比べ上昇した」との回答があった。

仕入価格上昇と回答した企業のうち、33%は「販売価格へ転嫁できている（上昇分の全てではない場合も含む）」と回答があったが、40%は「価格引き上げの交渉中又は交渉予定」、さらに「価格転嫁は難しい」と回答する企業も25%あった。

大手メーカーなどでは原材料をはじめコスト上昇を理由に販売価格の値上げに踏み切った企業が今年が多い印象、ただし中小企業では値上げにより消費が落ち込む可能性がある（食料品製造業）、他社へ切り替えられる恐れがある（印刷業、運輸業）など慎重にならざるを得ない状況が報告された。また、鋼材価格の上昇に価格転嫁が追いつかない（鉄構）との報告もある一方、県の設計単価が市場価格を押し上げることを期待しているとの声もあった（骨材製造）。

新型コロナウイルス感染症に加え、ロシアのウクライナ侵攻など不安定な世界情勢を背景に、中小企業は今まで以上に予測し難く不安定な経済環境に不安を抱える事業者が多い。中央会では、相談窓口の設置、専門家による経営改善支援など中小企業経営に必要な情報をスピード感を持って提供していくこととしている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

<p>食料品 (水産物加工業)</p>	<p>ホテル・旅館やレストラン等の業務用が好調で、売上げが前年同月に比べ131%となったが、コロナ前に比べるとまだ70%程度に留まっている。原油価格の高騰に加え輸入原料の高騰もあり、経営を圧迫している。</p>
<p>食料品 (洋菓子製造業)</p>	<p>県外に小売展開を行っている組合員は、店舗の拡大が奏功し、全商品の売上げが好調で全体の売上げが前年同月比110%程となった。原油をはじめ原材料等が高騰しているが、業務の合理化や省力化に取り組み、値上げはしない予定。</p>
<p>食料品 (パン・菓子製造業)</p>	<p>前年同月比で売上げは10%程増加したが、原材料の高騰により収益が圧迫されている。原価高騰分を価格に転嫁しなければならないが、簡単にはできそうにない。</p>
<p>食料品 (酒類製造業)</p>	<p>売上げの減少が続いている。資金繰りも厳しく、とにかく感染症が収束することを願う。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>裏地部門では、ドビー織り、ジャガー織りともに動きはあるが今後の動向は不明。ネクタイ部門では、イベントやメーカー企画など単発の注文が少しあり、傘地は在庫可能なOEM製品の受注が中心。インテリアの注文は少ないが、今後を見据えて取引先と新柄について議論を重ねている。</p>
<p>木材・木製品製造</p>	<p>ウッドショックが一年以上続き、まだ高値が継続している。今後はロシア産木材の流通量が減少する見込みであり、内地材の供給も間に合わず、受注・供給共に不安を感じている。</p>
<p>印刷・同関連業</p>	<p>用紙・インキなど資材の値上げが続いている。販売価格に転嫁できず、収益状況が悪化している。</p>
<p>窯業・土石 (山砕石)</p>	<p>前年同月に比べ売上げは約▲10%、収益は約▲20%となった。前月との比較では販売数量が6%増加したが、原油価格の高騰によりこれまでも大きな負担となっていた輸送経費がさらに膨れ上がり、収益状況は悪化した。今まで以上に組合員の経費負担が増していることから、先行きへの不安は大きい。</p>
<p>一般機器 (業務用機械器具製造業)</p>	<p>半導体製造関連や工作設備関連機器の受注は好調で、前年同月に比べ売上げは10%増加した。しかし、材料価格が高騰し入手も難しい状況にあることから、収益に大きな影響が出ている。</p>

<p>一般機器 (生産用機械器具製造業)</p>	<p>前年同月の売上げが低かったため、今期は40%程増加した。現在は受注が順調に推移し仕事量が確保できているが、今後の予測は難しい。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>前年同月と比べ売上げは10%程増加したが、原材料の不足や価格の高騰は深刻で、収益状況は悪化している。今後はロシアのウクライナ侵攻が経済に悪影響を及ぼすと考えている。また、好調が続いている半導体製造関連の受注がいつ減少していくか不安を感じている。</p>
<p>宝飾 (貴金属)</p>	<p>前年同月に比べ売上げ、収益ともに▲50%となった。感染症の影響により人出が減少し、購買意欲も減少していると感じている。</p>

● 非製造業

<p>卸売 (自動車中古部品)</p>	<p>中古車部品の買取価格の相場は高水準で推移し、鉄の買取価格はリーマンショック以来の高値となっている。一方、廃車の発生台数は3月としては過去最低となり、買取価格の相場で持ちこたえている状況である。</p>
<p>小売 (青果)</p>	<p>3月下旬以降は人出が少し増え、売上げが回復傾向にある。</p>
<p>小売 (食肉)</p>	<p>近県のまん延防止等重点措置が解除され、旅館・ホテルでは観光客の宿泊が回復してきている。飲食店では、歓送迎会等の利用が少なく売上げが伸び悩んでいるが、今後は回復していくと予測している。 また、ロシアのウクライナ侵攻が空路や航路に影響し、輸入肉の入荷量減少や値上がりを引き起こし始めている。</p>
<p>小売 (電気機械器具小売業)</p>	<p>地域小売店ベースでは前年同月に比べ売上げが15%程落ち込んだが、前年はエアコンの特需が伸びていたことから、ほぼ平年に近い状況。</p>
<p>小売 (事務機小売業)</p>	<p>売上げ、収益ともに前年同月と変化はないが、メーカー小売価格の改定により販売価格は上昇した。</p>
<p>小売 (ガソリン)</p>	<p>原油価格の高騰が止まらず、記録的な水準で推移している。小売価格の上昇を抑制する燃料油価格激変緩和対策事業の補助金支給上限が、3月の第2週目から1Lあたり5円から25円にまで拡大されたが、第3週目には補助金枠の上限に達し、今後の原油価格の動向を懸念している。</p>

<p>宿 泊 業</p>	<p>3月中旬までは平日のビジネス客による宿泊が多かったが、近県のまん延防止等重点措置の解除以降は、週末に来県する観光客が増え、感染症拡大前の水準には戻っていないが、宿泊者は増加した。4月以降は茨城、群馬、埼玉、千葉、神奈川、長野からの来県者も「やまなしグリーン・ゾーン宿泊割り」を利用できることから、宿泊者数の増加を期待している。</p>
<p>美 容 業</p>	<p>感染症の影響から組合員の売上げは減少傾向にあるが、3月は卒業式等の行事により来店客数が増加した。</p>
<p>一般廃棄物処理</p>	<p>人手不足が続いている。また、事業承継の課題を抱える組合員も多く、事業の継続に支障が出始めている。</p>
<p>警 備 業</p>	<p>天候に恵まれ予定工期前に完成し終了した工事の増加、短期・小規模の工事による稼働率の減少、また感染症の影響により花見やスポーツイベント等が縮小・中止になったことから、前年同月に比べ売上げが減少した。4月～GW明けまでは公共工事が見込めないことや春のイベント等が中止になっていることから、業界にとっては厳しい期間になると予想している。</p>
<p>建 設 業 (総 合)</p>	<p>公共工事では前年同月と比べ件数は▲4%、請負金額も▲15%となった。3月末累計では、件数は▲2.9%程となったものの、請負金額では4%の増加となった。</p>
<p>建 設 業 (型 枠)</p>	<p>建材価格の高騰に加え、職人の不足・高齢化が進んでいる。請負価格が上がらないため、前年同月に比べ売上げは10%程増加しているが、収益は▲10%となった。</p>
<p>建 設 業 (鉄 構)</p>	<p>鉄鋼の材料（スクラップ、鉄鉱石、原料炭）の高騰に加え副資材、物流、エネルギーなどのコストが上昇、ロシアによるウクライナ侵攻の影響が価格をさらに引き上げている。自動車業界が半導体不足で閑散傾向にあるが、稼働した際には材料の入手が困難になり、納品までの期間がさらに伸びると考えている。</p>
<p>設 備 工 事 (電 気 工 事)</p>	<p>公共工事やその他大型工事でも資材不足により工事が遅延し、今後の工事にも影響が出ると考えている。また、サプライチェーンが不安定で、電気通信設備用資材においても一部納期の遅延が生じている。</p>
<p>設 備 工 事 (管 設 備)</p>	<p>原材料価格や輸送コストの高騰を理由に、各メーカーから4月以降一斉に資材を値上げすることが告知され、見積もりの作成に苦慮している。</p>

<p>運 輸 (タクシー)</p>	<p>感染者数の高止まりにより利用者が減少している。また、燃料をはじめ様々な資材の価格が高騰し、非常に厳しい経営状況が続いている。</p>
<p>運 輸 (バ ス)</p>	<p>近県にまん延防止等重点措置が発令され、旅行やイベントが減少し、前年同月と比べ収益状況が悪化、業界の景況も悪化している。</p>
<p>運 輸 (トラック)</p>	<p>前年同月と比べ売上げは13%程増加したが、燃料価格をはじめ人件費等が高騰し厳しい経営状況が続いている。感染症の影響は落ち着いてきたように感じるが、予断を許さない状況に変わりはなく、今後の動向を注視している。</p>
<p>その他 (介護)</p>	<p>雇用人員が減少し、仕事の依頼はあるが断っている状況。従業員募集をしても応募がなく、人材不足が課題である。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2021/3	2022/2	2022/3	2021/3	2022/2	2022/3	2021/3	2022/2	2022/3
売 上 高	-45	15	5	-23	-7	3	-32	2	4
収 益 状 況	-40	-35	-40	-33	-27	-20	-36	-30	-28
景 況 感	-45	-15	-15	-30	-27	-17	-36	-22	-16

※( (良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数) ×100) =D. I 値

